

第 44 回全国少年柔道大会県予選開催要項

- 1 目 的 全国少年柔道大会は柔道の基本技能を正しく取得させ、心身共に健康で我が国の将来を担う小学校児童を育成すると共に、相互の親睦をはかることを目的とする。
- 2 主 催 群馬県柔道連盟
- 3 期 日 令和 6 年 2 月 18 日 (日) 開会式 10 時 00 分
役員集合 9 時 00 分
審判及び監督会議 9 時 30 分
- 4 会 場 アルソックぐんま武道館 第一道場 前橋市関根町 800
T E L 027-234-5555
- 5 参加資格 (1) 参加する選手は、令和 6 年 4 月 30 日現在、小学校 5 年生・6 年生の男・女。
但し、5 年生の補充として 4 年生を充てることもできるが 3 年生以下の出場は認めない
(2) 参加チームは全柔連に団体登録している。また、選手はその団体から登録をしていること。(監督は C 指導員保有が必要) 全柔連団体登録が異なっても可。
(3) 参加チームのコーチ 1 名の帯同は認めるが、全柔連に指導者・役員登録をしていること。(未登録者は、帯同入場を認めない)
(4) 今年度より、**全日本少年団に加入していること**が参加資格になりました。
当日に加入申請書と 5000 円を持参してください。
加入している団体は、令和 6 年度も年会費をお支払いください。
(5) 皮膚真菌症 (トングランス感染症) について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしいもしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。
もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
(6) 柔道着について、マーク指定は有りませんが 袖口を折返している場合は出場不可です。
- 6 チーム編成 (1) チームの編成は分団、または道場単位とする。
※単位ごとであれば複数チームの出場も可とする。
※各チームで全柔連登録をしていない選手を臨時に他のチームから移籍する等の行為があった場合はそのチームを失格とし、今後の本大会の出場を認めない。
(2) イ) 1 チームは監督 1 名選手 5 名とし、補欠は 2 名とし、申し込み後の変更はできない。
ロ) 選手の編成は、大将、副将、中堅は 6 年生次鋒、先鋒は 5 年生とし学年順に配列
ただし、下学年の児童が 1 学年上の児童の位置に出場することはできる。
また、選手は各学年順に配列し同学年内は「体重順」に配列する。
受付後に体重測定を行う。
ニ) 怪我等の負傷で抜けた所は選手変更は認めるが定められた編成で行う。
ホ) 選手が少なく上の学年に出場する場合は学年編成に順って配列する。
例 4 年 2 人、5 年 2 人の場合 4・4・欠・5・5 年生の配列
4 年 1 人、5 年 2 人の場合 欠・4・欠・5・5 年生で前空、後詰めの配列で行う。
- 7 試合時間 【 3 分 】
- 8 試合方法 「国際柔道連盟試合審判規程」「少年大会特別規程」を適用する。
*2024 年 4 月 1 日通達・少年規程改訂補足を適用
(1) トーナメント戦で行う。
(2) 判定基準は、「一本」「技有」「僅差」それに満たない場合は「引き分け」とする。
*「僅差」とは、双方に技による評価 (技あり) がない、又は同等の場合「指導」差が 2 有った場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。
(3) 勝ちチームは次の順により決定する。
(4) チーム間の勝ち数による。
(5) 勝ち数が同じときは内容による。
(6) 同内容のときは代表戦を 1 回行い、必ず優劣を決する。
(7) 代表戦に出場する選手は、「引き分け」の中から抽選で 1 組を選んで通常の 3 分間の試合を行う得点差が無く、かつ「指導」差が 1 以内の場合は旗判定で勝敗を決

する。(GSは行わない)

- 8 申し込み (1) 申し込み先 群馬県柔道連盟普及部長 櫻井太郎 宛て
〒 370-0069 高崎市飯塚町 1040
TEL 090-5552-2716
メールアドレス sakurai-judo@ivy.ocn.ne.jp
- (2) 参加料 3,000 円 全日本少年団 (年会費 5000 円) 計 8000 円
- (3) 締切日 令和 6 年 1 月 20 日 (土) 必着のこと。
申込書を DL し様式を変えずに件名は団体名の E メール (エクセル) で申込むこと。
締め切り後の申し込みは一切認めない。
- 9 表彰 1 位～3 位 (2 チーム) まで表彰する。
- 10 その他 (1) 各チームともオーダー表 (1 枚) を用意する。

横 7 8 8 mm 縦 2 7 2 . 7 5 mm

先	次	中	副	大	道場名

(模造紙たて 4 分の 1)

- (2) 優勝チームは令和 6 年 5 月 5 日に講道館で行われる予定の第 44 回全国少年柔道大会に群馬県を代表しての出場権を得る。

(注) 最近柔道精神に反するような言動が試合時に目立ちます。監督等の振る舞いの申し合わせ事項を参考にして審判、監督コーチ、保護者の協力により立派な大会にするようご協力をお願いいたします。尚、監督、コーチは審判員に準じる服装でお願いします。

- (3) 脳震盪対応について、選手および指導者は下記事項を遵守すること。
- (a) 大会 1 ヶ月以内に脳震盪を受傷した者脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - (b) 大会中、脳震盪を受傷した者は継続して当該大会に出場することは不可とするなお、至急脳神経外科の専門医の精査を受けること。
 - (c) 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること
 - (d) 当該選手の指導者は大会事務局および書面により事故報告書を提出すること。試合前 1 カ月以内に脳震盪になった選手は参加させない (専門医の検査受け異常が見られない場合は除く)
- コロナの感染状況により中止になる場合も有ることをご承知おき下さい。

嘉納治五郎師範のことば

(勝ち負け)

将来、大いに伸びようと思ふ者は
目前の勝ち負けに重さをおいてはならぬ。

(順道制勝)

勝つにしても道に順って勝ち
負けるにしても道に順って負けなければならぬ。
負けても道に順って負ければ
道に背いて勝ったより価値があるのである。